

目 次

第1部 企業と会計管理	1
第1章 営業報告書の機能および性格 (藤田友治)	3
I はしがき——営業報告書の記載事項の法定化	3
II 営業報告書の情報目的	5
III 営業報告書の機能	8
IV 営業報告書の性格	14
V むすび——営業報告書に関する課題	18
第2章 自己資本利子の計上 (中村宣一朗)	21
I 利潤と自己資本利子	21
II 自己資本利子計上の基本問題	29
III 自己資本利子の計算	34
IV 自己資本利子の会計処理	42
V 自己資本利子計上の意義	46
第3章 内部監査部門の役割と対境関係 ——わが国の実態調査を中心として—— (加藤恭彦)	49
I 序文——実態調査の要項と調査目的	49
II 内部監査部門の体制	51
III 内部監査部門の任務	52
IV 監査結果の報告と改善提案	53
V 監査結果の処置と内部監査部門の権限	56

2 目 次

VI	監査効果の測定と監査実施体制	57
VII	内部監査部門の対境関係	59
VIII	結 語	62
IX	実態調査結果	62
第4章 科学的管理の原価体系		111
(山本純一)		
I	は し が き	111
II	経営史的意義	112
III	科学的管理の方法論的背景	116
IV	科学的管理の原価体系	121
V	要 約	129
第5章 アメリカにおける管理会計の研究動向		131
(光岡貞夫)		
I	は じ め に	131
II	シンポジウムに提出された論文の概要	133
III	お わ り に	152
第2部 企業と情報システム		161
第6章 OA と会計情報システム		163
(大山政雄)		
I	序	163
II	経営におけるOAシステム	165
III	現行EDPシステムとOA	170
IV	会計情報システムのOA化の問題	172
V	EDPシステムとOAとの関連	173

第7章 組織測定機能とオフィス・システム	175
(浦 田 宏 昭)	
I ま え が き	175
II 組 織 と 情 報	175
III 組 織 と 測 定 機 能	178
IV オフィス・システムとオートメ化	182
V 情報力の維持とオフィス・パワー	184
VI エントロピーの除去とOA	186
VII む す び	188
第8章 意思決定支援システム論の展開	191
(布 上 康 夫)	
I 意思決定支援システムの発展過程	191
II DSSによる意思決定支援	195
III DSSの諸機能	203
第9章 情報会計システムの最適化モデル	211
— クライネ-デブケ(Klein ² -Doepke, Rainer)の所説を中心に—	
(河 崎 照 行)	
I は じ め に	211
II 情報会計システムの規範モデル	214
III モデルの解の「一般的」不可能性	220
IV モデルの解の可能性と制約条件	227
V む す び	236
第3部 企業と人間	239
第10章 ワグナー法と労政委員会	241
(竹 林 信 一)	
I 序	241

4 目 次

Ⅱ 1935—37年	241
Ⅲ 1937—40年	246
Ⅳ 1940—45年	252
Ⅴ 1945—47年	255
Ⅵ 結.....	257

第11章 中小企業経営者について259
(北 澤 康 男)

I 論 点 整 理	259
Ⅱ 企業の発展段階	260
Ⅲ 企業成長と経営者	267
Ⅳ む す び	275

第12章 経営経済学の認識進歩と人間労働277
(渡 辺 和 俊)

I 序 論	277
Ⅱ 人間労働の測定基準値	278
Ⅲ 生産モデルと人間労働	281
Ⅳ 経営経済学の認識進歩.....	287
Ⅴ 結 論	291

第 4 部 企業と環境適応293

第13章 略述・漁船損害等補償法とその
制定に至る漁業環境295
(星 野 良 樹)

I 漁船保険制度創設に向って	296
Ⅱ 戦前における制度の内容と変遷	299
Ⅲ 漁船損害補償法の成立過程	303

Ⅳ	漁船損害補償法の基本姿勢	306
Ⅴ	満期保険制度とその内容	309
Ⅵ	漁船損害等補償制度に至って	313
第14章 市場細分化の計量的研究の展望		317
(萩野典宏)		
Ⅰ	市場細分化の計量的研究のフレーム	317
Ⅱ	市場細分化変数の検討	320
Ⅲ	購買確率を従属変数とする市場細分化モデル	323
Ⅳ	規範的市場細分化モデルによるシミュレーション	327
Ⅴ	市場細分化の判別分析技法の検討	330
Ⅵ	結 語 ¹	333
第15章 企業の回生過程		335
—東洋工業の事例分析—		
(小松陽一)		
Ⅰ	はじめに	335
Ⅱ	分析のフレームワーク	337
Ⅲ	分 析 方 法	340
Ⅳ	企業業績の下降段階	341
—既存ゲシュタルトの崩壊過程—		
Ⅴ	危 機 段 階	347
—新規「ゲシュタルト」の開発と移行—		
Ⅵ	企業業績の上昇過程	353
—新規「ゲシュタルト」の定着化—		
Ⅶ	結 論 と 展 望	356
第16章 西独多国籍企業の対在外子会社支配		359
—発展途上国における子会社との関係を考察の中心として—		
(林 満 男)		
Ⅰ	序	359

6 目 次

Ⅱ 組織形態	361
——母娘組織からグローバル組織へ——	
Ⅲ 在外子会社経営者への母国人登用の 多さと組織の非公式性	365
Ⅳ 母国人経営者登用割合の経営 分野的特徴と企業哲学	374
Ⅴ 結	380
神馬駿逸先生 略歴	1～2
神馬駿逸先生 著作目録	1～5